

Hack For Japan

エンジニアだからこそできる復興への一歩

Hack
For
Japan

第52回

エフスタ!! TOKYOで デザインと開発を考える

● Hack For Japan スタッフ
鎌田 篤慎 KAMATA Shigenori
Twitter @4niruddha

本連載でたびたび登場している、ITエンジニアのためのスキルアップ応援コミュニティ「エフスタ!!」。今回は東京で開催された「エフスタ!! TOKYO」の様子をレポートします。福島を拠点とするエンジニア達がどのような思いで活動しているのか、その一端が見えれば幸いです。

「エフスタ!!」とは

初めて「エフスタ!!」というコミュニティを目にする読者の方のために、簡単にこのコミュニティについて紹介したいと思います。「エフスタ!!」では「IT業界で働く人たちが楽しんで仕事ができるよう身の回りのIT業界を変えたい」「夢と希望をもった技術者を育てたい」「そのために教育に力を注ぎたい」という願いが根底にあります。であれば、まず「エフスタ!!」の地元である福島のITが変われば、面白くなれば、夢と希望を持った技術者が増え、やがて世界を変える技術者が福島から誕生するという発想です。そのような理念を実現するためのきっかけ作りの場として「エフスタ!!」というコミュニティは運営されています(図1)。

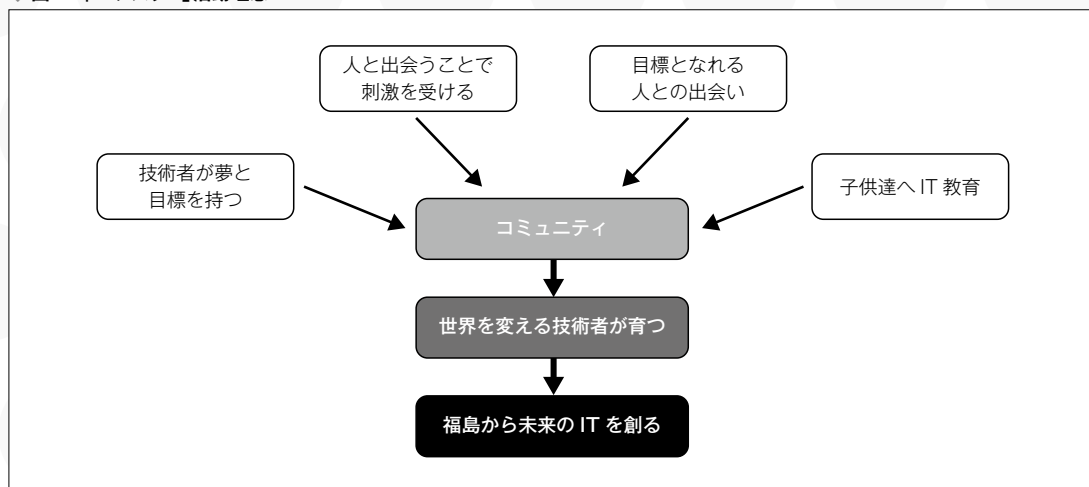
また、「エフスタ!!」の語源は「福島のスタイルを変

える」から「エフスタイル」に略され、語呂の良さから今の「エフスタ!!」というコミュニティ名に落ち着いたそうです。

デザインとエンジニアリング

さて、今回紹介する「エフスタ!! TOKYO」のテーマは「デザインの流儀 ～ITエンジニア×デザイナー」でした。ITエンジニアとデザイナーが一緒になってシステム開発を行うシーンが増えてきている最近の流れの中で、お互いの仕事の間にある隔たりや、それぞれの仕事上のこだわるポイントが異なっている点で相互に理解し合えていない状況があります。こういった状況でなかなかうまく仕事が進められない現場の課題を解決するために、デザイナーの方やデザイナーとエンジニアの間で活躍されている方達に登壇いただき、双方がうまく仕事を進めてい

◆ 図1 「エフスタ!!」活動理念



くためのポイントや、デザイナーはどういった発想で物作りに当たっているかという観点からのお話をいただきました。

デザインをする際に考えていることとその視点

最初にフリーランスのデザイナーとして活躍されているTIMING DESIGN代表の北村崇さんより、デザイナー目線から見た、物作りのうえでのこだわりのポイントを紹介いただきました(写真1)。北村さんはデザイナーがアーティストだと勘違いされ、ディレクターやエンジニア、営業といった職種の人たちから、見た目優先で作っていると誤解されやすい現状に警鐘を鳴らします。デザインという作業の本質やデザイナーが何を考え、何をゴールとしてデザインをしているのか、またはするべきなのか。デザインの基礎のお話を踏まえたうえで、構築側が知っているとやり取りがスムーズになる「デザイナーのこだわりポイント」などのお話がありました。

まず「デザインは本能に忠実」というのが前提にあり、視線の動きであったり、心理学や社会学も含めた形でデザインについて包括的に人間の行動に沿った形を意識して考えられているという点があります。また、デザインは目的を持って提供していくという観点から、アクセシビリティのしっかりしているサイトはタブ移動にも意味が感じ取れるが、人間の行動を考慮せずに目的を持たないようなデザインになってしまっているサイトは使いづらいという指摘は会場からも納得の声も多く挙がりました。

◆写真1 北村さんによるデザイナーの考え方の紹介



デザインの工夫でユーザの負担を大きく下げるといふ話では、「いつ」「どこで」「誰が」「なにを」「どうする」「どのようにする」というのを考えると、それぞれの状況でユーザが置かれている状況が変わることが理解できるとのこと。そのような状況を議論の前提に置くことで、相手のやっていることを理解する、自分のやっていることを理解してもらう、といったコミュニケーションをはかる能力があげられます。これがデザイナーとエンジニアがうまく仕事を進めていくうえでも非常に大切なものになるという、当たり前のようで、なかなかできていない部分にフォーカスしたお話でした。

異なるアプローチで同じゴールへ向かうチーム

続いては、インフラジスティックス・ジャパン代表取締役の東賢さんによる「デザイナーとデベロッパー：異なるアプローチで同じゴールへ向かうチーム」というテーマのお話で、デザイナーとエンジニアがうまく仕事を進めるうえで前提となる考え方を確かめる問いとして「デザイナーとエンジニアは目的が本当に一緒になっているか?」というものを挙げられました(写真2)。そして、実際にデザイナーとエンジニアが一緒になって作っているプロダクトについて、目的が一致しているかどうかを確かめる手段として、エレベーターピッチをエンジニアもデザイナーも同じように伝えられるかどうか?というものを紹介いただきました。

エレベーターピッチとは、自分たちが開発してい

◆写真2 東さんによるデザイナーとエンジニアの双方に必要な姿勢のお話



Hack For Japan

エンジニアだからこそできる復興への一歩

るプロダクトが、こういった顧客向けで、なんという製品名で、どのようなカテゴリに属していて、そのプロダクトの重要な利点や対価に見合う説得力のある理由、競合製品と差別化する決定的な特徴は何かなどといった説明を、エレベーターに乗っている短い間で同乗する出資候補者に対して行うプレゼンテーションのことを言います。このエレベーターピッチを通して、エンジニアとデザイナーが目的を1つに取り組みているかどうかが測れるというお話はたいへんうなずけるものでした。

また、デザイナーとエンジニアの間のギャップを埋めるアーキテクチャとして「ここから先は変えていい、ここから先はダメという線引」「デザインを実装しやすくするための共通言語を利用する」「デザインは想定した仕様を維持できる、さらに良くできる」「UIのアーキテクチャについてはいくつかの検討要素がある」といったキーワードを挙げました。これらを軸にして、デザインをしていくうえでの制約の整理を行うのがエンジニアの仕事、というふうにお互いの職務領域を明確にしてからコミュニケーションすることの重要性を唱えられました。

デザイン・開発の両立から見えること

講演の最後は我々、Hack for Japanのメンバーでもある株式会社dott 共同代表取締役の清水俊之介さんによる、デザインという仕事と開発という仕事の両立を通じて見えてきた、デザイナーとエンジニアが一緒になって働くコツをお話いただきました(写真3)。

◆ 写真3 清水さんによるデザインと開発の間のお話



清水さんは絵画修復技術士という経歴から、システム開発の道に入られた異色の経歴を持つ方で、背景として芸術があったことからシステム開発の道に入ってからでもデザインから実際のコーディングまで、一人で作業することが多かったそうです。このことから、双方の立場に立って相手の求めているものを歩み寄って知ることの大切さを伝えてもらいました。

ライトニングトークで知る福島

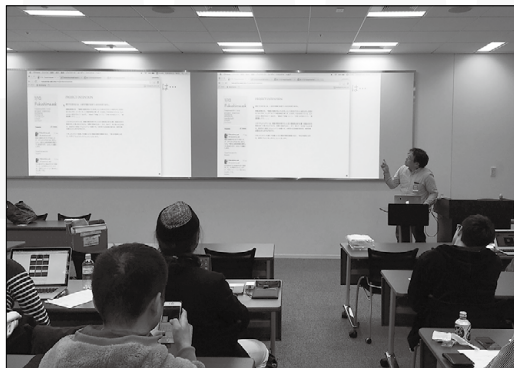
さて、「エフスタ!!」のイベントでは参加者によるライトニングトークが恒例となっています。「エフスタ!! TOKYO」では東京に住む人たちにに向けて、福島の現状を伝えるお話も過去数回にわたりライトニングトークの場で聞くことができました。今回は直接参加者の方が福島の現状を伝えるといった内容から趣を変えて、今、福島で行われている一つの試みが紹介されました。

福島を伝えるドキュメンタリー

「エフスタ!!」のスタッフでもある山中英治さんのライトニングトークで紹介されたのは「1/10 Fukushimaをきいてみる^{※1}」という福島の今を切り取って伝えるドキュメンタリー映画でした(写真4)。震災から数年が経ち、福島県外に住んでいる人たちには

注1 <http://fukushima-ask.info/>

◆ 写真4 「1/10 Fukushimaをきいてみる」を紹介する山中さん



現地の実際の情報が正しく伝わって来ることがありません。読者のみなさんも福島原発での除染の話や子育ての話、福島での食事の話や帰宅困難地域に住んでいた人たちのニュースを耳にすることは少なくなったのではないのでしょうか？ また、聞いたとしてもそれが本当の話なのかどうか、福島に住む知人がいなければ確かめることもできません。このドキュメンタリーは福島の現地に住む人の声をひたすら集めて1年単位で公開していくスタイルで、監督の古波津陽さん、出演は福島県出身の女優である佐藤みゆきさん、撮影が柏崎佑介さんといった3人で2013年から始まった企画として紹介されました。

ドキュメンタリーの中で取り上げられている話を少しだけ山中さんより紹介いただきましたが、除染袋を引き取っている住職の話や成人式を迎える新成人に関する話など、今の福島を伝えるドキュメンタリーとして、大変興味深いものがありました。福島県外での上映や海外での上映なども予定されています。ご興味をお持ちの読者のみなさんもぜひホームページにアクセスして、上映情報をご覧ください。

「エフスタ!!」と Hack For Japan

さて、「エフスタ!! TOKYO」も今回で数えて7回目を迎えました。2012年12月8日に都内にて第1回が開催された際には、Hack For Japanからは及川卓也さんによる「見る前に跳べ〜ギークの工夫で社会を変えよう〜2012年冬」と題した「Developers Summit 2012」で発表された内容のアップデート版での発表がありました。これを皮切りに、「エフスタ!!」の勉強会では毎回IT業界のプロフェッショナルを招いて講演をしてもらうことで「エフスタ!!」に集まるエンジニア達のスキル、マインドの底上げという理念の一部実現を狙っています。

「エフスタ!!」に参加されたことのない方から見ると、ITプロフェッショナルの講演や福島の話となると非常に固い勉強会という印象を持たれてしまうかもしれませんが、これは実際に参加していただくとわかるとおり、「エフスタ!!」の勉強会はどこかアットホームな雰囲気となっています。毎回、福島名物

のおやつが配られるおやつタイム（「エフスタ!! TOKYO」では東京のおやつも合わせて配られます）もあり、リラックスしながら参加者同士で交流し、新しい人達とつながりが生まれています。また、メリハリを付けたトークセッションではゲストの真剣な技術の話と参加者を交えて面白おかしいトークを織り交ぜることで、参加者のみなさんは真剣に聴講することと、会を楽しんでリラックスして参加することの両方ができているのです。そして、参加者のスキル、マインドを高め、リラックスした後に福島の現状を語る場合も合わせて用意することで参加者に福島にも興味を持ってもらうのが定番のスタイルとなっています。

7回目の東京開催となった今回はもう1つ大きなニュースがありました。「エフスタ!! TOKYO PJ」立ち上げメンバーでもある代表の大久保仁さんは当日に業務が重なってしまい参加が叶いませんでしたが、同じく「エフスタ!!」初期から参加し「エフスタ!! TOKYO」の責任者でもある影山哲也さんより、運営スタッフの中から誕生したカップルがご結婚されたというニュースが発表がされました（写真5）。

明るく福島の実未来のために活動する「エフスタ!!」も長い時間をかけて、コミュニティとしても大きく育っているうれしいニュースでした。こうして福島を飛び出して大きく活躍する人達と共にこれから長い時間をかけて復興していく福島を、みなさんどうぞ応援してください。SD

◆写真5 エフスタ!!スタッフ同士の結婚の立会い人となった大久保さん

